

札幌市環境プラザ事業検討部会

第1回実施概要

- ◆ 日 時 平成22年 7月13日(火) 午後7時～午後9時
- ◆ 会 場 札幌エルプラザ公共施設 会議室1・2(2階)
- ◆ 出席者 **【委員】**
今 委員、新保委員、桧山委員、内山委員 森山委員
白崎委員、藤田委員、成田委員、鈴木委員、本富委員
【札幌市】
札幌市環境局環境都市推進部長、環境計画課長、環境教育担当係長、
環境教育担当
【事務局】
財団法人札幌市青少年女性活動協会事務局長、
部長(エルプラザ公共4施設館長)
課長、市民活動主幹、管理主査、事業主査、市民活動主査、環境主査
主任指導員、指導員
【傍聴】
なし
- ◆ 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) 札幌市環境局環境都市推進部長あいさつ
 - (3) 事務局長あいさつ
 - (4) 委員の紹介
 - (5) 座長選出
 - (6) 議 事
 - ・ 札幌市環境プラザ管理業務計画について
 - ・ 環境プラザ状況報告及び平成21年度事業報告について
 - ・ 平成22年度事業計画概要について
 - (7) 閉 会

議事の概要

<報 告> 平成21年度事業報告・平成22年度事業計画について

【評価】

- ・ ホームページ内に報告が載っているのが大変すばらしい。普通ホームページには予

告はあっても結果がない。一体どんな内容で行われているのかを知りたい。ぜひこれは続けて欲しい。

- ・昨年度、環境プラザから「3R 学習教材」と「畑の化学」を借りた。すごく良いもので、今までこの存在をよく知らなかった。環境プラザに来て初めて実物を見てこれはいいと思い、申し込みをした。
- ・ホームページの一つの大事な機能はアーカイブ機能で、過去に何があったかということ、いままでは図書館に行ったり、ファイルを出さなければいけなかったものが、過去の蓄積が常にいつでも見られるということは、環境教育においては重要な機能だと思う。
- ・4年生の3学期にエコロジーの学習があるのだが、環境プラザのエコ+(プラ)1事業「風でデンキがキター!!」や北ガスの実験も子ども達に魅力的な内容。先生方は色々なところを見ながら取捨選択をしていくと良い。よってどう周知していくかは大事だと思う。

【意見】

- ・ホームページ上の行事などの告知で年度がわかると良い。年度によってマークをつけるなど、何か工夫をお願いしたい。
- ・ホームページの関係でキッズページにどれだけアクセスがあるのかカウンターをつけておくと良い。実際にどのくらいアクセスしているか、何の項目が一番必要とされているかが、なかなかわからないので、そういったチェックもぜひ欲しい。
- ・中学校や小学校に環境プラザのパンフレットと一緒に環境教育教材リストを送ると知らない先生が借りるきっかけになるのではと感じた。ホームページを開いて知る先生はなかなか少ないと思うので、そういうアプローチは可能。
- ・小学校だと教材開発をしていくときに環境プラザのホームページから取り寄せようというスタイルはなかなかない。一覧表やこんな形で使えるという見えるスタイルにならないと難しい。
- ・私たちの団体は100人の会員がいるが、パソコン操作のできる方は現実には2割もいなかった。ホームページからいろいろなものを拾って一般市民の方がそれを活用するのは限りなく少ないのが現実。チラシや書き物、読み物、あるいは面談などそういったものから情報を得るのが現実的。ホームページ以外の媒体でPRするのも工夫のひとつ。
- ・良いホームページを作ったとしても、そこに訪問してもらわないことには何の意味もなさない。せっかく良いホームページに仕上がっているので、ホームページの存在をまず知っていただき、どう誘導するかを検討が大切。
- ・ホームページから情報を出すだけでなく、それを使っているいろいろな人が参加できる機能も大事。一体何人が見るのか、どんな周知があるのか、ホームページに頼らない別な方法もぜひ今後検討してほしい。
- ・環境教育リーダーの立場で言うと、腕章と緑のバッジをもらうのだが、リーダーによって使い方が様々。派遣の際にどういった気持ちで使ってほしいとか、PRで使ってほしいなど、何かあれば声をかけて欲しい。バッジより首からかける名札が統一されていると良い。ケースや台紙が何枚かいただけると使い分けに良い。
- ・札幌市環境局では、環境教育基本計画や環境政策の中のプラザの位置づけ、札幌市の思いとして環境基本計画などの中でプラザがこういう役割を果たして欲しいという思いがあると思う。温暖化防止の部分でも、市の目標に対して、プラザはどんな役割を果たすべきか、ごみの減量の分野で日本の平均から見ると、札幌市の平均排

出量が大きいので、プラザとしてはどういう目標を持って活動してほしいのか、その辺りの考えを聞けると事業への意見が言いやすい。

- ・事業については普及・啓発の要素が非常に強くて、実際にどういう結果を残していくかという目標に対してバックキャストिंगで取り組んでいくというようなものももっと盛り込まれた方がいいのでは。目標に向かってどういう取り組みや結果を積み上げていけばいいのか、それに応じて環境プラザにどういうことが求められるのか。例えば札幌市の温暖化で言うと、民生部門の排出量が多いので、町内会を味方につけてやっていく。そういった事例を先ほどのホームページにどんどん蓄積していくとか、町内会同士を競わせるような取り組みを行うことで、温暖化防止、CO2削減にどんどんはね返っていくのではないかと、そういった視点が必要ではないかと思う。
- ・講師派遣パンフレットですが、学校に1部か2部は来ているが、先生方全員分はない。先生方が派遣制度を知っているかどうかというと難しい。内容としては意外に授業でも使えるが使い切れていないのが一番の悩み。周知が大事。
- ・教育委員会で作成する規定編の環境副読本に、アドバイザー派遣制度や環境プラザ展示コーナーなどについて一言あると先生方に周知できるかと思う。
- ・札幌市環境局の出前講座でパッカー車に来てもらったが、川の学習の時には、環境教育リーダーに来ていただくなど、環境学習でも学校側でいろいろな選択肢があることがわかった。こういったものが一本化されて全部見えるようなスタイルになってくると先生方は使いやすいと思う。パソコンも全員の机にありインターネットも活用できるので、どんな風に周知していくかは、今がチャンスだと思う。
- ・委員の方の中でも、プラザの宣伝、周知をしたり、逆にプラザの方からもチラシを用意して先生方にアピールしていくなど、手段を検討されて案内できると良いのでは。
- ・身近なところから積み重ねて、先生方に何回も接していくという地道な努力が必要なのだという感じがする。チラシも含めて方法論はたくさんあるが、身近なところの団体やコーディネーターの方も含めて、一対一の対面で話し合いをしながら現場に連れていく。このタイミングを逃さないということが必要と感じる。
- ・札幌市と環境プラザが自主的にやっていることのほかに、いろいろな環境団体が行っている事業もあるので、そういったことも含めた情報をもっとプールして発信していけると充実していくのでは。
- ・札幌市の環境施設のほかにも、道が持っている施設や国が持っている施設など情報が山積し、その中で、ニーズによっては、札幌市内のみならず、大局的な国全体のことや、幅広い情報の提供が欲しいという方もいるので、情報の集約ということももっと充実していくと良いと思う。
- ・環境に関することは環境プラザで図書を推薦したり、札幌市内の小・中学校の図書館にこんな本を置いたらどうかというような資料、情報があればありがたいと思う。発信基地であって欲しい。ホームページの充実も含めて、教育支援につながると思う。
- ・図書館外の専門の機関に子どもたちのさまざまな質問が投げかけられ、返ってくることも相談業務の活性化の一つ。もう少し相談業務が活性化しても良い。
- ・教育センターや教育研究会など一緒に環境教育をすすめるパートナーとしてふさわしい組織とのかかわりがあるようだが、単純に相対ではなくNPO等の専門家の知識をインプットできるように、プラザが中心となって学校現場にNPOの方を派遣するようなことを考えられないか。費用については、クリック募金などを充てたり

札幌市の広報に、道新に載っているように贈呈している写真を毎回載せるとお金もある程度集まってくるのでは。

【感想】

- ・白熱灯と蛍光型電球とLEDを点灯、比較したりする実験をしたいと思っている。そういった実験教材を気軽に貸し出ししていただくと大変助かる。
- ・環境教育リーダーに川の探検で来ていただいた。4年生の子どもたちを対象に2回来ていただいたがやはりプロの目。私たちでは伝えられないことをプロの目で伝えてくれる。
- ・システムチックに環境プラザが真ん中であって、それをうまく融合できたらというのが私たちの大きな期待。
- ・札幌市の環境に対する取り組みは、どういう戦略を持って進んでいくのか、その中でこのプラザはどういう役割を持っていくのか、そこをはっきりさせていかないと、効果ある事業は難しいと思う。そうした意味でシステム化していくことは、環境プラザにとって大変な仕事であり、A、B、Cをつないだり、それを効果的に組み合わせながら行っていく。そのコーディネートや組織化に大変苦労されながら事業を進められているのではないかと思う。イベントというのは、何をやったら人数が集まったとか、私たちの目にもその効果ははっきりわかりやすいが、システムをつくっていくところはずぐには見えない。なかなか評価にはつながらないかもしれないが、そういったところも着実に進められていると感じている。そこは地道なつながりをつくっていき、目に見えない労力をかけているところで生まれてきているのではないかと思う。